



円相さん

ハロートの法則② 師匠と弟子～教え～

279 - 7 1109772

ある石漠に東のオアシスと西のオアシスがあった。それぞれオアシスに住むには絶対的レベルがあった。それを破った者にはオアシスより追放されるという決まりがあり。それは、死を意味するのでした。東のオアシスのレベルとは「自分の幸せのみを追求して生きる」というものでした。そして東のオアシスにいる800人の人々は、みなこのレベルを守って生きていました。とにかく自分の幸せのために……。西のオアシスのレベルとは「他人の幸せのみを追求して生きる」というものでした。そして西のオアシスにいる200人の人々はみなこのレベルを守って生きていました。とにかく他人の幸せのために……。

師匠「お前なら、どちのオアシスを選ぶかね？」 弟子「西です」 師匠「どうしてだ？」 弟子「東のオアシスは、キレイくて人間関係をつくるのも難しい気がします。西のオアシスはとてモキレで友達もたくさん出来るとは気がします」 師匠「そのとおり。実際にお前の言たとおりになっている。住むには西のオアシスのほうが良いだろう。東に住むのが自分のことを幸せにしてくれようとしてくれるのは自分一人だけ。西に住むのが199人が自分のことを幸せにしてくれようとしてくれる」 弟子「やっぱり」 師匠「それでは、東と西の仲は良いと思うか？」 弟子「それは、悪くに決まっています」 師匠「それは、少し違うかな。お互いの考え方が違うかもしれないが、実は非常に仲が良いのだ!! 東の人には自分を喜ばせてくれる西の人が、お金を払い、200本も必要で存在で西の人には、東の人に200本必要とされていて、また、その人を喜ばせてあげることが出来るのだ。そこには需要と供給の関係ができています。弟子「…」 師匠「そこで、東と西のオアシスの財産の量も言ってみると、東のオアシスでは、金塊が200本あるのに対して、西のオアシスには800本もの金塊があったのだ。人と金の割合がバランスが逆だったのだ。どちのオアシスに住むかは自分で決めろよ」 弟子「はい!!」 師匠「この教えを聞いても、くだらない、そんなことはない。実際にそんなことはない。と言う者もいるだろう。残念だが、言うている者は、東のオアシスの住人だろう。」

置き手紙 ～メモという～

上野丸へ、いって来る
りお助
テストで悪い点もとる時あるや
だて人間だもの
おれ

↑ 先生の理緒(中3)が書いたもの。
思わぬ笑ってしまった。テストはいつも悪いやつ

笑いの時間を10分

- 夫は私と結婚せずして、なぜか、危険物取扱者試験に合格し、資格を取った。
- 妻「私と、いざとなら、やるときはヤダアアだよね！」
夫「いざとなら、いざとなら」
- 「買う」の反対語は？ 子供たちに聞いたところ「見るだけ」「がまんする」と返ってきた。
- 「ぼくの父さん」という題名で作文を書いた息子。
作文用紙を見ると早速「ぼんくんの父さん」と書いてあった。